

「温暖化の進行防止は人類の闘い」国連事務総長が決意表明

2019年8月2日 12時00分

国連のグテーレス事務総長は、先月1か月の気温が観測史上最も高くなったと指摘したうえで、温暖化が後戻りできなくなるのを防ぐことは人類の闘いだとして強い危機感と決意を表明しました。

グテーレス事務総長は1日、ニューヨークの国連本部で記者団を前に地球温暖化に関する声明を読み上げ、冒頭、最新の気象データなどをもとに「ことしの7月は観測史上、最高を上回らないとしても最高に並ぶ気温を記録した月になった」と述べ、温暖化が着実に進行しているという認識を示しました。

そのうえで「温暖化が破滅的に進み後戻りできなくなるのを防ぐのは人類の闘いだ。この闘いには勝たねばならず、勝つことはできる」と述べて、強い危機感と決意を表明しました。

グテーレス事務総長は去年8月、スウェーデンの科学者らが世界の平均気温が現在よりも1度以上高くなれば温暖化の進行を止められなくなるという研究結果を発表して以降、「後戻りできない」という表現を頻繁に使用しています。

このため温暖化の進行を止めるには2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする必要があるとして、グテーレス事務総長は国際社会が総力を結集する必要があると強調しました。